

# 私立 日本福祉大学

## 日本福祉大学就職支援組織「キャリア支援人材バンク」の構築

取組期間	2009(平成21)年度～2011(平成23)年度
区分	学生支援推進プログラム
所在地	〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田字会下前 35-6
設置者	学校法人 日本福祉大学

### 取組内容とその成果

#### プログラムの目的及び内容

本取組では、学生の就業意識と職業イメージ育成の推進を目的に、卒業生を中心とする就職支援組織「キャリア支援人材バンク」を構築する。学生が恒常的に卒業生からの支援を受けることは、学生が自己の将来目標を形成し、その実現に向けた大学の帰属意識形成と学習動機付けも明確になることから、専門学習の活発化など教育への効果ある取組となる。

#### 到達目標

本取組では、主に卒業生で構成する「キャリア支援人材バンク」を形成し、低学年から全学生の就業意識と職業イメージの育成を目指す。また、卒業生情報を精緻化することにより、本学の教育実績、支援実績等を示すとともに、全学生の将来目標の実現に資する就職実績(数的・質的)の達成を目標とする。

#### プログラムの実施内容

学生の就職支援をより効果的に展開できる支援体制の強化と、新たな環境を整備する。また約6万人いる卒業生の現況調査を実施し、卒業後の就業動静・社会的役割、大学時代の学習過程と現職との関連等の分析することにより、教育力の一層の向上を図るものとする。

実施体制は、就職キャリア開発委員長を中心とした就職キャリア開発委員会において、全学的に本取組を推進する。また、既に本学同窓会組織で推進している就職支援機能を本学の学生支援組織として明確に位置づけ、学内外一体となった支援ネットワークを構築する。

#### プログラムの成果

##### 1. 当該プログラムの周知方法等(学内では、どのような方法で周知徹底したのか。)

本取組の内容、経過、成果等に関する情報提供の方法としては、大学広報物(保護者向け小冊子、同窓会報、学生向け冊子等)、ホームページを通じて行ってきた。これらの従来と同様の周知方法に加え、新たに開設した「キャリアサポートセンター名古屋」での周知も行った。学生対象の企画については、学内掲示板への掲載、メールによる案内のほか、各種ガイダンスやオリエンテーションにおいて周知徹底した。

##### 2. 当該プログラムの成果

###### ①自己評価はどのような観点で行ったか。

本学の諸事業に対する自己点検・評価は、全学機関である「全学評価委員会」と、大学院及び学部教授会のもとに置かれた「大学院・学士課程教育等評価委員会」及び「外部評価委員会」が、PDCAサイクルに基づいて実施している。

本取組では、就職キャリア開発委員長が所管する就職キャリア開発委員会が就職支援の評価を担い、主に次の観点を設定し、自己評価を行った。

- (1) 対就職希望者比内定率(過去3年間) \* 資料1
- (2) 3年次希望進路と決定進路との差違 \* 資料2
- (3) 「キャリアサポートセンター名古屋」利用学生数推移 \* 資料3
- (4) キャリアアドバイザー登録者数 \* 資料4

上記(1)(2)の観点については、下記「②到達目標の達成」欄で後述する。(3)の観点については、2010(平成22)年度と2011(平成23)年度を比較すると、1.3倍利用学生数が増加しており、本取組の成果が現れていることがわかる。

(4)の観点については、現在73名まで登録者数が増え、その属性は各分野、性別、年代に渡っており、

在学生の要望に応えられる体制が順次整備されてきている。

今後は、第三者評価として、各領域の専門家に委嘱した「外部評価委員会」に諮問し多面的な評価を受けることが望まれる。また、本取組において得られた就職支援課題については、就職キャリア開発委員会での提起のほか、毎年度発行の「自己点検・評価報告書」にも反映し、各学部・各機関にフィードバックして改善を求め、就職支援における各種事業計画策定に繋げていくことを予定している。

#### ②到達目標に達したか。

到達目標の達成度指標のひとつ「最終学年在籍の学生に対する就職率 85%以上」を達成し、2011(平成 23)年度の対就職希望者比内定率は 92.7%であった。なお、過去 2 年間の実績は、2010(平成 22)年度 95.6%、2009(平成 21)年度 93.3%であり、本取組の実施期間 3 年間ともに達成している。(各年度 3 月末日集計値)

##### \*資料①【4 年生就職内定状況過年度対比】

また、達成度指標の二つめ「第 1 就職志望分野・職種への達成率 80%以上」は、2010(平成 22)年度は、全学平均 79%の達成率(進路変更率 21%)であった。

##### \*資料②【3 年次希望進路と決定進路との差違】

#### ③具体的な成果は何か。

#### 【1 年目成果】(2009(平成 21)年度)

1. 全卒業生を対象とした現況調査により、卒業生における在校生への支援意識や卒業後のキャリアなどを把握し、今後のキャリア支援人材バンクのネットワーク構築、組織化に向けたデータとして活用する基礎データの集約ができた。特に約 7 千名からの調査回答には、就職・キャリア支援に関わる指標だけでなく、卒業後に必要なスキル、求められる力などを見出し、それらを踏まえた就職支援内容を検討するに至った。
2. 学部設置校地とは別に、本学名古屋キャンパスに就職支援拠点「キャリアサポートセンター名古屋」を開設した。本学のキャンパス立地は都心部から離れていることから、学生が就職活動において経済的、時間的な制約を受けていたが、名古屋での就職活動支援を展開することにより、学生支援を充実させることが可能となった。
3. 同窓会、卒業生との個別相談ができる機会を増やし、特に Uターン就職に必要な情報を随時取得可能なネットワークを形成した。6 月と 11 月には全国の同窓会、卒業生を就職相談員とする就職相談

会を実施し、本学学生が延べ 300 名参加した。また、本学の地域ブロックセンターの活用による地元企業との就職説明会を開催するなど、出身地域の就職情報ネットワークの形成も行った。

4. 就職活動に必要なスキルを向上させるための講座を開講した。特にキャリアアドバイザーが講師として担当する「就活スキルアップ講座」や「就職ガイダンス」には、昨年の参加率を大きく上回り卒業予定学生の約 8 割が受講・参加した。特に名古屋キャンパスを活用した就職支援講座(2010(平成 22)年 2 月から 3 月に実施)には、3 年次学生 150 名以上が参加し、就職活動と並行しながら支援講座を受講することにより、即時学生の問題、課題解決を図ることができた。

#### 【2 年目成果】(2010(平成 22)年度)

1. 就職支援・キャリア形成講座等をきめ細かく実施し、学生の就職・キャリア支援の充実を図ることにより、特に就職活動を目前に控えた学生や就職活動中の学生は、明確な希望進路を持ち、自発的な就職活動等を展開することができるようになった。また、自発的な就職活動だけに留まるのではなく、資格取得や学習意欲の向上に繋がるようになった。
2. 新たな就職支援拠点として本学名古屋キャンパス内に「キャリアサポートセンター名古屋」を開設し、支援体制の強化と環境整備を行ったことにより、支援を求める学生が 20%程度上昇した。また、名古屋キャンパスに恒常的な支援拠点ができたことにより、フィールドワーク教育の充実や展開が可能となり、教育環境の充実を図ることもできた。
3. 卒業生を招いた就職指導やキャリア形成指導を行ったことにより、学生の就業意識の向上と進路希望を明確にできる学生が前年度対比で 30%程度向上させることができた。学生の具体的な進路希望が把握できたことにより、教育改革やキャリア形成支援事業の開発などの課題を明確にすることができた。
4. 学生が卒業生から恒常的に支援を受け、関わることを可能とするシステム開発を行うことにより、学生のキャリア形成と就業意識の向上を目指す。また、システム開発と同時にキャリア支援人材バンクの中心となる協力的な卒業生の開拓を行い、卒業後のキャリアの在り方や様々な職場、職業に

おける求められる要素などを把握することができた。

### 【最終成果】(2011(平成23)年度)

1. キャリアカウンセラーによる就職支援機会を常設したことにより、本学における就職支援体制の強化と環境の充実を図ることができた。特に昨年の東日本大震災等によって就職環境が一時的に停滞せざるを得ない状況にあったり、厳しい就職活動状況において精神的な支援が求められたりするケースも多々あり、そうした場合の専門的な支援・指導を受けることは学生にとっても重要な支援となった。本事業で立ち上げた名古屋キャンパスでの就職支援実績についても、キャリアカウンセラーの個別面談件数は、2011(平成23)年度が224名となり、2010(平成22)年度(初年度)実績172名を上回る実績となった。
2. 各キャンパスにおけるキャリア形成講座等では、就職活動を支援する講座として「就活スキルアップ講座」(3、4年生対象、美浜キャンパス開講)を年間通じて開講し、受講学生延べ955名が受講した。また、半田キャンパスでは、キャリア形成講座の一つとして資格取得対策講座を開講し、延べ27名が受講した。こうした取組に参加した学生は、幅広いキャリア形成が図られ、4年生については就職活動結果にも大きく寄与した取組となった。
3. 近年本学卒業生14名と既に就職活動を終えた4年生の8名を相談員として開催した「就活プランニングセミナー」では、在学生(全学部3年生以下対象)約135名が参加し、諸先輩からの就職活動のアドバイスや職場における働きがい、求められる能力などについて学ぶことができた。
4. 2010(平成22)年度から開発着手した「キャリアアドバイザー検索システム」を前半期に完成させ、昨年7月より学生へのシステム利用を開始した。システム開発と並行して同窓生を中心としたキャリアアドバイザーの開拓を行い、システム利用開始時点で75名のキャリアアドバイザーを構築した。学生の利用頻度は、まだ上級学生の10%に満たないが、利用した学生の満足度は非常に高いことから、今後、全学に渡って広くキャリア形成に必要な仕組みであることを徹底することが課題となった。

3年間に亘り、就職支援体制の強化や学生の就

業意識を向上させるための就職支援事業を推進してきた。特に近年の就職環境の厳しさを受けて、学生の就職先とのミスマッチにより早期離職者も見受けられることから、より在学時における就業意識と職業イメージの育成が急務といえる。

本事業では、こうした課題に対応するために、「キャリア支援人材バンク」の構築事業としてキャリアアドバイザー検索システムの開発・推進を行い、卒業生の協力的な支援事業を行った。同時に、複数のキャリアカウンセラーや公的機関との協働によるキャリア形成・育成支援事業は、低学年から学生の就業意識と職業イメージの育成に寄与したと言える。

## 今後の計画

### 1. 当該プログラムの成果をどのように活用していくか。

本取組において開設された「キャリアサポートセンター名古屋」における就職支援事業を継続するとともに、キャリア形成・育成支援事業を低学年にも展開、拡大を図るべく実施に向けて計画策定中である。特に就職支援においては、学生からの支援ニーズも高まっていることから、キャリアアドバイザーを日常的に対応できるよう配置し、より機能の強化を進める。

また、本取組において開発された「キャリアアドバイザー検索システム」は、今後、キャリアアドバイザー登録、並びに在学生の利用促進を一層図ることとする。現在は、同窓生を主体としたキャリアアドバイザー登録を促進してきたが、今後は、本学の就職支援協力者の枠組みを広げ、より支援体制の充実を図る。その結果、より多くの学生が就業意識と職業イメージを持ち、自身の希望進路達成に向けて主体的に行動できるよう、全学的な支援体制で実施していくこととする。

### 2. 今後の計画

本取組の評価と実績に基づき、経常経費の中で継続的に就職支援組織からの支援を受け、より就職実績に効果がある取組へ展開する。

## 就職未内定者への支援策

### 1. 内定(内々定)のピークを過ぎても内定(内々定)を得られない者への支援策

就職活動における問題点の把握、具体的な求人情報提供を主目的に、就職活動中の4年生を対象に、夏季集中個別面談を実施した。また、行政との協働支援事業として、次の2事業を推進し内定へ繋げた。  
 (①愛知県主催「大学等巡回企業説明会」②経済産業省公募事業/愛知県採択「ヤング・ジョブあいち中小企業採用・定着支援プロジェクト(エム・タス)事業」による学内説明会)

併せて、新卒応援ハローワークの支援を積極的に受けるよう指導するとともに、ジョブサポーターの

派遣を要請し、学内進路相談会を実施した。

2. 未内定のまま卒業した者への支援策

卒業後、新卒応援ハローワークによる支援を希望する者を把握し、当該卒業生の就職が決定するまで定期的な個別フォローを依頼している。併せて、個別に本学に寄せられる求人情報は継続して提供するとともに、活動の進捗状況把握に努めている。また在学時と同様に、求人情報の閲覧や就職相談ができる環境を整備し、学位授与式において案内文やチラシを配布し利用促進を呼びかけた。

学生支援推進プログラム

資料

資料① 【4年生就職内定状況過年度対比】

	2011年度 (H23年度)	2010年度 (H22年度)	2009年度 (H21年度)
卒業予定者(人)	1,175	1,139	1,315
就職希望者(人)	1,049	1,003	1,082
就職内定者(人)	972	959	1,010
就職内定率(%) (対就職希望者比)	92.7	95.6	93.3

\*各年度3月末日集計値

資料② 【平成22年度3年次希望進路と決定進路との差違】

分野	全学合計		希望進路 変更者数 *(人)
	決定進路実績 構成比	希望進路から の変更率	
企業	41%	8%	91
医療・保健	11%	0%	3
教育	5%	0%	5
福祉	36%	7%	80
公務	5%	-10%	-112
法人(上記以外の法人)	1%	-6%	-70
自営	0%	0%	2
現職		0%	-1
進学		5%	35
その他		8%	-57
内定者	86%		
就職希望者	88%		
希望進路登録者数(人)	1081	228	
進路変更率(全学平均)		21%	

\*希望進路変更者数

= 希望進路決定(4年次)学生数 - 希望進路登録(3年次)学生数

資料④ 【キャリアアドバイザー登録者(属性) 平成24年3月現在】

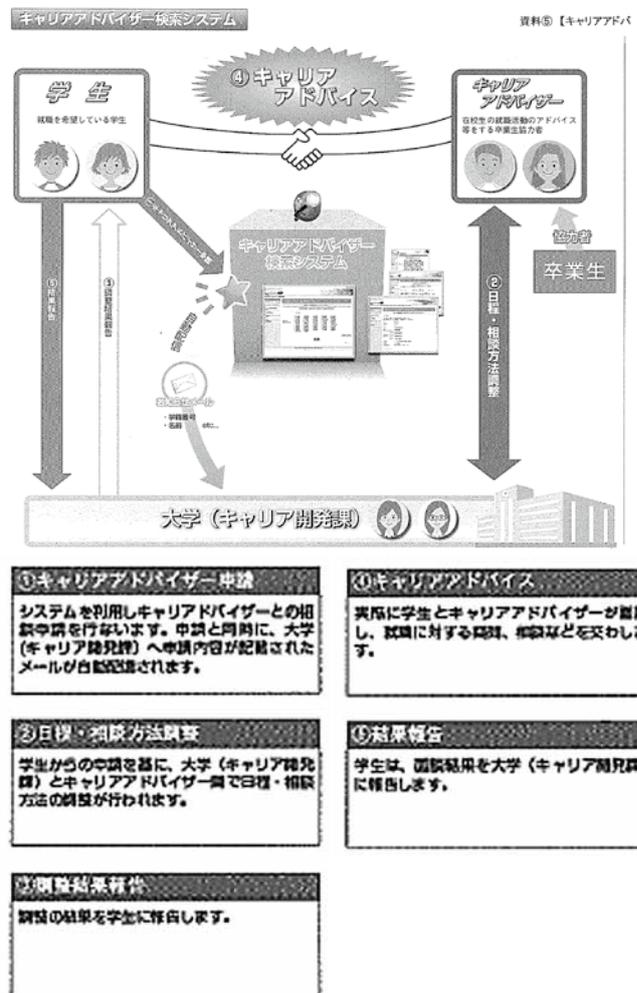
性別	男性	女性	合計
人数	54	19	73

年代	20歳代	30歳代	40歳代以上	合計
人数	31	6	36	73

相談可能な分野*	医療(MSW)	医療(P.S.W)	医療(PT・OT)	医療(総合職)	高齢者	障害者
人数	10	9	0	7	27	25
相談可能な分野*	児童	保育	社協	公務員	企業	その他
人数	15	11	15	16	18	14

\*相談可能な分野は、複数回答可能なため、合計は73人とならない

資料⑤ 【キャリアアドバイザー検索システムイメージ】



資料③ 【キャリアサポートセンター名古屋 利用学生数推移（月別）】

月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月			
年度		平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度		
主な開催講座・イベント (対象:③・④年生)		④就職塾		④就職塾		④就職塾		④学内企業(福祉系)説明会 ④就職塾 ④夏季集中講座		④夏季集中講座		④就職塾 ④夏季集中講座		④夏季集中講座		・就活祭・講演会(学生企画)		③キャリア進路相談会 ④障がい者・児童福祉就職セミナー			
学部生	小計	15	15	18	10	10	26	5	16	13	6	12	9	22	15	5	21	3	6	5	7
院生・既卒	小計	1	2	4	2	4	0	3	3	1	4	1	3	1	3	0	0	0	0	3	1
学部・院生・既卒合計		16	17	22	12	14	26	8	19	14	10	12	10	25	15	6	24	3	6	8	8

月		1月		2月		3月		合計		
年度		平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	
主な開催講座・イベント (対象:③・④年生)				③学内企業・法人説明会 ③キャリア形成集中講座	③学内企業・法人説明会 ③キャリア形成集中講座	③学内企業・法人説明会 ③キャリア形成集中講座	③学内企業・法人説明会 ③キャリア形成集中講座	④夏季集中講座(8-9月)		
学部生	小計	2	14	21	14	38	16	144	178	27
院生・既卒	小計	4	3	4	1	2	2	28	24	
学部・院生・既卒合計		6	17	25	15	40	18	172	224	

評価結果

評定：S

評定理由（総論）

卒業生へのアンケートやキャリア・アドバイザーの組織化と検索システムを構築するとともに、キャリアサポートセンター名古屋を設置する等、特色ある取組を全学的に実施している。その結果、就職実

績は確実に向上しており、優れた取組となっている。今後、キャリア人材バンクがより一層充実することが期待される。自己点検評価については、全学的に組織的に実施されている。評価項目についても数値目標が明確であり、PDCA サイクルに基づいて評価が行われている。

実地視察報告

視察日：2012(平成24)年10月12日（金）



総評

1. 卒業生を対象とした現況調査を基に、卒業生によ

る「キャリア支援人材バンク」を構築し、有効に活用している。卒業生による就職やキャリア形成指導や同窓会、卒業生による個別相談会が意識変

革や進路決定に役立っている。可能にしたのは、同窓会との大学との日常的な協力関係と全国規模で存在するネットワークの存在である。

2. 学部設置校地とは別に名古屋キャンパスに「キャリアサポートセンター」を設置するとともに両拠点にカウンセラーを常駐させ、特に、専門のキャリアアドバイザーを雇用した。そのことによって、キャリア支援がカウンセリングを加味した継続的で、きめ細かな相談・支援に発展し、相談件数も増加するとともに、就職面での成果を上げている。特に、名古屋のキャリアサポートセンターの設置は、機動的な就職情報提供とキャリア支援に有効であった。
3. 各キャンパスでのキャリア形成講座では「就活スキルアップ講座」を年間を通じて開講し、「資格取得対策講座」や「就活プランニングセミナー」(卒業生と就職決定した4年生)を開設し、スキルアップとキャリア意識の向上に役立っている。
4. 今後は、「キャリアサポートセンター名古屋」における就職支援事業及びキャリアアドバイザーを継続的に常駐させ、充実させる。また、「キャリアアドバイザー検索システム」はアドバイザーの拡大と運用方法を改善する計画である。
5. この取組を全学的な評価を実施することによって「就職キャリア開発センター」が活性化し、全学的な合意形成を実現している。

ザーによる自己分析から始まる体系的な支援や相談を継続できる利点を持ち、個別面談件数が増加して2011(平成23)年度には224名となっている。学生からのヒアリングでも就職での成果を上げている。従って、名古屋キャリアサポートセンターとその支援体制を独自予算で継続する。

3. 「就活スキルアップ講座」は、年間を通じて開講し、延べ935名が受講し、スキルアップと意識改革に役立っている。
4. 卒業生と同窓会との連携が可能なのは、全国的な同窓会ネットワークの存在と、大学と同窓会との関係を長年に亘って構築してきたことにある。

### 個別事項

1. 「キャリアアドバイザー検索システム」は、学生のキャリアに対する理解者である卒業生をアドバイザーとする注目すべき取組である。しかし、キャリアアドバイザーの登録者の拡充とともに、在学生が利用しやすいように運営を改善し、利用を促進することが課題となっている。学生からのヒアリングでも、利用しやすい運営改善が要望されている。
2. 2つのキャンパスでの「キャリアサポートセンター」でのキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーによる就職支援と相談を常設したことによって、継続的な支援と相談が可能となった。特に、名古屋キャリアサポートセンターは、学生の就活活動の時間の節約、交通費の節約等、利便性に貢献している。さらに、専門のキャリアアドバイザーによる就職支援と相談は、同じアドバ